

各区だより

昭和区



2年ぶりの 作品展と新事業

丸2年以上に渡り猛威を振るう新型コロナウイルス。2年間も予定したほとんどの事業が、中止になるとは思ってもいませんでした。今年度こそはと、年度当初から多くの事業を予定していた令和3年度でしたが、またしてもコロナウイルスに翻弄された1年でした。結局、実施できた事業は「ペタンク大会」と2年ぶりに開催ができた「趣味の作品展」でした。

「ペタンク大会」は昨年度も唯一実施ができた事業で、72名の選手と健康部員が運営と審判で参加しました。参加者は久しぶりの会員との再会に自然に笑顔がこぼれていました。

「趣味の作品展」は、令和4年の1月11日～13日までの3日間、区役所講堂で開催しました。2年ぶりの開催で、出品がどれくらいあるか心配していました。が、絵画・工芸・書・手芸・写真など173点の出品がありました。コロナ禍では初めての作品展で、検温、手指の消毒、連絡用名簿の作成と例年



とは違う受付方法のため、初めはともいもあるようでしたが、来場者の皆さんも、密にならないように、大声で話さないように、協力をいただき、スムーズな運営ができました。

今年度(令和4年度)は、世代間交流事業(ポッチャ大会)を初めて区子ども会との共催で行う予定をしています。

近年、クラブ数、会員の減少が続いています。一番の原因は役員(特に会長)の後継者がいないことです。「自分が健康ならもう少し続けられるのに」と退会されたクラブもありました。どうすれば、この危機を乗り越えられるのか。答えは簡単には出ないですが、少しでも家庭で老人クラブの話題になれば、きっかけになればと、子ども会の役員さんの協力をいただき計画しました。

今は、一刻も早くコロナがおさまり、例年の事業や子どもたちのポッチャの大会ができることを願っています。(高橋 静江)

瑞穂区



国際大会ができる施設で カローリングを楽しみました



なぎ合わせのため、ジェットローラーの進行方向が急に変化したリ速度が落ちたりしたと聞いています。

昨年のカローリング大会は、同年6月に開館した、2026年開催予定のアジア競技大会などの国際・全国規模競技大会が可能なパロマ瑞穂アリーナで感染防止対策を施した上で「ポッチャ体験コーナー」も平行開催しました。

コロナ禍の中で開催可否の不安がありました。参加者は素晴らしい施設環境を体感しながら楽しんでいました。

新型コロナウイルス感染症対策で行動自粛も必要ですが、自粛という負の連鎖が健康維持に影を落としかねないと感じている次第で、ワクチン接種が進み早期の感染収束が待たれます。(吉田 憲二)

毎年11月に学区から選手を選抜、計16チームを前年度成績・選手構成から実力差で4ブロックに分けてカローリング大会を開催します。

当区は大会開催実績が過去9回と乏しく、今思い起こせば、複数の区老連から要領を取り寄せて暗中模索の中、瑞穂区老連独自の促進ルールを策定しました。第1回は井戸田小体育館で開催し、以降区講堂(2回)と総合リハセン体育館(5回)と続きました。特に区講堂では床面が木面つ

